

## 4年 国語科研究授業のまとめ（6月29日）

### 1 単元名及び単元の目標

「ヤドカリとイソギンチャク」（9/9本時）

◎ 段落どうしの結び付きを考えて読み、文章のまとまりをとらえることができる。

### 2 本研究授業の提案について

文章のまとまりを意識し、友達から受けたコメントを基にして自分の考えをさらに深めたり広げたりするための手だてとして、以下のことを提案した。

前時までに説明文の構成図を作成させ「始め」「中」「終わり」となっている全体の構成、「中」の部分の問いと答えを中心とした3つのまとまりに分ける作業を行い【資料1参照】文章の構成を確かめた。本時では「なるほど」「不思議」「もっと知りたい」ことをワークシート【資料2参照】に書かせた。友達を書いたものを読み、付箋に書いたコメントをプリントに貼付し、友達からのコメントを読み感想を書かせることで自分の考えをさらに深めたり広げたりする手立てを講じた。グループ形式ではなく、席は動かさず自分が動いているいろいろな人の考えを読むことができたので、考えを広げるには有効な手立てだと考える。

構成図を作成していく中で、児童たちからいろいろな疑問が生まれたことでワークシートの最初の発問は迷わずに書くことができた。しかし、友達の考えを知り、それに対して付箋にコメントを書く場面では、友達の疑問にどのようなコメントを書いたら良いのか悩んでいる児童も多く、「私もそう思います。」「同じ考えです。」など、賛同するだけのコメントも見られ、そこから考えを深めるには至っていなかった。本時で児童にどのような力を付けさせたいのかをしっかりと理解し、主発問や活動内容を考えるだけでなく、その後の児童の反応を予想し、吟味する必要がある。

また、本時の内容では、教材文だけでは解決できない疑問が出てきたため、児童が疑問に思ったことを解決させる時間を設定する必要があると、児童がもった疑問をそのままにしないような授業計画が必要である。

### 3 本研究授業の授業技術課題について

前時までに学習したことを黒板の横に掲示したことで、これまでの学習の振り返りができるように工夫したが、それを本時の中に生かし切ることができなかつたことが課題としてあった。

また、1時間の学習活動の流れを板書に掲示して視覚化したことで、今の活動がどの位置にあるのか明確にすることができた。

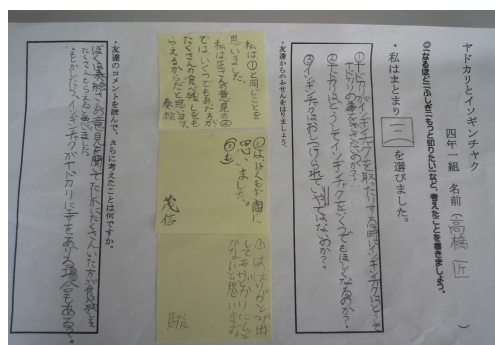
### 4 次回の研究授業へ向けて

以上の点をふまえ、次回の研究授業では以下の点を意識した授業展開を考えたい。

- ・児童に書かせる事柄を吟味し、分かりやすい主発問を提示する。
- ・本時のねらいを焦点化させ、それを生かしたまとめを板書する。
- ・深まりのある話合い活動にするために話し合う内容や話合わせ方を工夫する。

| 終わり<br>まとまり   | まとまり4                     | 中<br>まとまり3                           | まとまり2                                 | 始め<br>まとまり1                              |
|---------------|---------------------------|--------------------------------------|---------------------------------------|--|
| (2)           | (10)~(11)                 | (7)~(9)                              | (2)~(6)                               | (1)                                      |
| まとめ           | 問い・答え                     | 問い・答え                                | 問い・答え                                 | 読題                                       |
| り<br>とイソギンチャク | たがいに助け合<br>り生きているヤドカ<br>リ | ヤドカリのおか<br>りえさを手にいれ<br>れるつばねのつば<br>ね | イソギンチャクに<br>くっついておこな<br>いハコからにつ<br>いて | 敵から身を守る<br>ためにイソギン<br>チャクがつける<br>イソギンチャク |

【資料1】



【資料2】